




インフォメーション・コーナー




会 告

平成 19 年度「研究グループ」の助成金募集について	86
平成 19 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	86
サマーセミナー 2007 参加者大募集!!	87
「農業土木学会学術基金」の募金について(再)	87
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	87
学会誌掲載報文等による通信教育について.....	88
「農業土木学会誌」閲読者の氏名公表とご協力のお礼.....	88
「農業土木学会論文集」閲読者の氏名公表とご協力のお礼.....	89
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	90
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ.....	91
農業土木学会誌への投稿お待ちしております!	92
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知(農業土木学会誌)」平成 20 年春季の表紙写真の募集.....	93
平成 19 年度資源循環研究部会研究発表会の発表申込みのご案内 	93
農地保全研究部会第 28 回研究集会の開催について(第 1 報) 	94
第 51 回粘土科学討論会	94
日本農業工学会平成 19 年度(第 23 回)シンポジウムの開催.....	95
農業土木学会論文集第 248 号内容紹介.....	96
学会記事	98

農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 8 月 28 ~ 31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会講演会 		松江市	74 巻 12 号 75 巻 1 3 号
平成 19 年 9 月 6, 7 日	農村計画研究部会	第 29 回現地研修集会 		奈良市	75 巻 2 号
平成 19 年 9 月 20, 21 日	農地保全研究部会	第 28 回研修集会		美瑛町	75 巻 4 号
平成 19 年 10 月 24 ~ 26 日	資源循環研究部会	平成 19 年度研究発表会 		東京都	75 巻 4 号

第 75 巻 5 号予定

展望：生みの親・育ての親：駒村 正治

報文

小田ダムにおける環境影響調査と保全対策：加藤 修一他
 ヒトの環境共生を成立させるための土地利用および水利用計画：斉藤 正貴他
 米国における農業紛争制度の枠組みと活用状況：橋本 禪他
 中央アジアの灌漑排水におけるアジア開発銀行等の役割：北村 浩二
 2004 年新潟県中越地震における農地の液状化被害：稲葉 一成他
 千年の水利資産の再構築プロジェクトと官・学連携スキームの役割：富田晋司

技術リポート

北海道支部：植生帯設置による浅層地下水中の硝酸素低減効果：末久美由紀他
 東北支部：事例紹介「コンクリート水路補修工法 PR 施工」：下平 暢樹
 関東支部：生態系を維持するための新しい排水路護岸工法：奥山 泰河他
 京都支部：国営佐渡事業における建設技術と今後の展望：米山 元紹
 中四国支部：深層混合処理工法による排水機場基礎：石倉 裕憲
 九州支部：軟弱地盤における周辺景観を配慮した自然石積み護岸について：松下 浩一他

講座：生態系配慮の基礎知識(その 2)：環境配慮対策の現状と課題：鈴木 孝文

小講座：沖 一雄

私のビジョン：竹下 伸一

平成19年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は、原則1件20万円程度3件以内です。

本年度の申請締切は、平成19年6月29日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 1 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
- 2 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
- 3 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
- 4 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に36歳未満であること。

- 5 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成19年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業土木分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(平成19年度、原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成19年9月14日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申込みください。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配

布する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業土木学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出及び審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請書作成」の助成金申請様式
締切(平成19年9月14日)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛（tkiku@jsidre.or.jp）

(3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)

必要記載事項：

(5) 研究の目的と内容(500字程度)

(1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属

(6) 研究資金申請応募先(予定)

サマーセミナー 2007 参加者大募集！！

農業土木サマーセミナー 2007 実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。」そんな住みにくい世の中の新しいことを、共に考えてみませんか？

農業土木を学ぶ学生を対象としたサマーセミナーは、今年で10回目の開催となります。学会終了後の3日間に行なわれるイベントです。

今回は「実施事業からみた農業土木のあり方」をテーマに、環境や社会と調和のとれた事業や、むかしの人々の創意工夫が垣間見える構造物、大学と現場とのギャップなどを題材にしたセミナーを開催したいと考えております。日々研究に没頭しておられる方、お祭り騒ぎが好きな方、進路に関して考えている方、人脈を広げたい方ご参加いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

記

1. 主催 農業土木サマーセミナー 2007 実行委員会
2. 協賛 農業土木学会学生委員会
3. 日時 8月30日(木)大会終了後～9月1日(土)午前中迄
4. 場所 中国・四国地区国立大学 大山共同研修所
〒689 4213 鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷字榎水原 793 44
5. 宿泊費等 15,000円以内
6. 参加申込み 以下のHPからお申し込みください。詳細についても随時更新しております。
http://www.geocities.jp/jsidre_ss2007
7. 連絡・問合せ先
東京大学大学院新領域創生科学研究科 国際協力学専攻 櫻井芳実あて
TEL/FAX:0471 36 4852
E mail:kk59103@mail.ecc.u.tokyo.ac.jp

「農業土木学会学術基金」の募金について(再)

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願ひ申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願ひいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願ひ

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じ

た時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

学会誌掲載報文等による通信教育について 農業土木学会行事企画委員会 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申しいただく必要はありません。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会誌編集委員会

農業土木学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業土木学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成11年度から氏名を公表(五十音順・敬称略)させていた

だくことといたしました。

ここに、2006年4月から2007年3月までの期間に、閲覧いただきました方の氏名を公表させていただきます。

この一年間に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきまして、まことにありがとうございました。ここに、お名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

井川 範彦	加藤 誠	笹田 勝寛	中村 公人	宗岡 寿美
石井 将幸	加藤 亮	島 尚士	服部 俊宏	安村 廣宣
一恩 英二	金田 力	関 勝寿	晴佐久 浩司	弓削 こずえ
稲垣 融一	金谷 尚知	大黒 理	樋口 清司	吉田 貢士
稲葉 一成	河地 利彦	武居 英樹	日高 正人	吉田 修一郎
井上 敬資	北村 邦彦	竹内 康	姫野 靖彦	吉永 育生
内田 一徳	北村 義信	武田 久和	福与 徳文	渡部 邦夫
遠藤 和子	黒田 清一郎	渡嘉敷 勝	藤咲 雅明	渡辺 紹裕
大野 研	黒田 久雄	豊田 裕道	前田 滋哉	
大森 茂樹	小出水 規行	中桐 貴生	牧山 正男	
荻津 輝夫	酒井 一人	中里 靖	松岡 生磨	
小梁川 雅	坂田 寧代	中田 摂子	松田 文秀	

「農業土木学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成19年4月には、通算248号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がっております。このような環境の中で、読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく247号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業土木学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平成11年度から読者を公表（五十音順・敬称略）させていただく

ことといたしました。

ここに、2006年4月から2007年3月までの期間に投稿原稿を閲覧いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

この一年間、論文集に掲載されるにふさわしい内容の維持にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。ここに名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

赤江 剛夫	井上 久義	加藤 弘二	久保田 富治郎	佐久間 泰一
芦田 敏文	猪迫 耕二	加藤 亮	倉島 栄一	颯田 尚哉
東 淳樹	上田 眞吾	加藤 徹	黒田 久雄	佐藤 和夫
東 信行	内田 一徳	金木 亮一	小出水 規行	佐藤 周之
東 廉	宇波 耕一	紙井 泰典	向後 雄二	佐藤 政良
天谷 孝夫	遠藤 和子	神谷 貴文	河野 英一	四ヶ所 四男美
有田 博之	大久保 博	唐崎 卓也	甲本 達也	嶋 栄吉
飯田 俊彰	大澤 和敏	軽部 重太郎	古賀 潔	島田 清
石井 敦	大槻 恭一	川島 茂人	後藤 章	島田 正志
石井 将幸	大野 研	川名 義明	小林 晃	清水 夏樹
石川 重雄	緒方 英彦	河端 俊典	小林 範之	清水 庸
石川 雅也	小川 茂男	川本 健	小林 久	志村 もと子
石黒 覚	奥島 修二	喜多 威知郎	小松 登志子	下田 星児
石黒 宗秀	小倉 力	宜保 清一	駒村 正治	白谷 栄作
石田 憲治	小谷 廣通	木全 卓	小山 修平	神宮 字 寛
石田 朋靖	角道 弘文	木村 吉寿	近藤 昭彦	杉山 博信
泉 完	加治佐 隆光	九鬼 康彰	斉藤 憲治	鈴木 研二
一恩 英二	梶原 晶彦	工藤 明	酒井 一人	鈴木 創三
伊藤 健吾	松枝 直人	工藤 庸介	酒井 俊典	鈴木 正貴
井上 一哉	加藤 治	國光 洋二	坂田 寧代	関 勝寿

関根 雅彦	取出 伸夫	畑 武志	藤巻 晴行	森 充広
千賀 裕太郎	中 達雄	八丁 信正	藤森 新作	森 也寸志
千家 正照	永井 明博	服部 九二雄	藤原 拓	森井 俊広
宗村 広昭	仲江川 敏之	服部 俊宏	細川 吉晴	守田 秀則
陀安 一郎	中尾 誠司	林 直樹	堀 俊和	矢沢 正士
高木 東	中北 英一	早瀬 吉雄	堀野 治彦	矢部 勝彦
高瀬 恵次	中桐 貴生	原口 暢朗	前川 勝朗	山岡 賢
高橋 強	長坂 貞郎	原田 昌佳	前田 滋哉	山路 永司
高松 利恵子	長澤 徹明	治多 伸介	牧山 正男	山本 忠男
瀧本 裕士	中嶋 勇	伴 道一	増川 晋	山本 太平
竹内 潤一郎	中曾根 英雄	坂西 研二	増本 隆夫	遊磨 正秀
竹内 真一	中園 健文	東 孝寛	真勢 徹	柚山 義人
竹下 伸一	中野 拓治	秀島 好昭	松井 宏之	万木 正弘
武田 育郎	中野 芳輔	人見 忠良	松尾 芳雄	吉田 信之
武本 行正	中村 公人	平藤 雅之	松本 康夫	吉田 隆輝
多田 明夫	中村 智幸	平松 和昭	三沢 眞一	吉永 育生
田中 勉	中村 好男	平松 研	水谷 正一	吉永 健治
田中丸 治哉	長束 勇	広瀬 慎一	溝口 勝	吉野 邦彦
田辺 公子	浪平 篤	福島 晟	宮坂 仁	李 玉友
谷 茂	成岡 市	福田 信二	三輪 弑	和田 清
丹治 肇	西村 伸一	福田 哲郎	村上 章	渡辺 一哉
筑紫 二郎	西村 眞一	藤井 克己	村島 和男	Md ザカリア ホセイン
月岡 存	西村 拓	藤居 宏一	村山 八洲雄	ROY Kingshuk
土谷 富士夫	西山 竜朗	藤居 良夫	毛利 栄征	
堤 聡	布川 雅典	藤崎 浩幸	粕井 和朗	
常住 直人	登尾 浩助	藤咲 雅明	森 健	
富田 正彦	端 憲二	藤原 正幸	森 洋	

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について**

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年3月末にはVol.5, No.1が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)

- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは、学会HP（http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/

scope.htm）の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering」を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年3月末にはVol.5 No.1が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI（Science Citation Index）のIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor（14名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転：2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間（～2008年12月31日まで）、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本（農業土木学会）の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOPST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制 2006.1.1～2008.12.31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 げ 4 ページ厳守)
5 号		
6 号 大会関連	公募なし	
7 号 持続循環型農業農村技術開発(仮)	公募終了	平成 19 年 4 月 13 日
8 号 農地・水・環境保全向上対策に向けて(仮)	公募なし	平成 19 年 4 月 30 日
9 号 農地からの土壌流出及びその対策(仮)	公募終了	平成 19 年 5 月 15 日
10 号 農業農村分野における GIS の活用(仮)	平成 19 年 4 月 25 日	平成 19 年 6 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社)農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

第 75 巻 10 号「農業農村分野における GIS の利活用」

GIS (Geographic Information System : 地理情報システム) は、位置情報や属性を持った空間情報をレイヤー化して、コンピュータを用いて重ね合わせて加工・管理し、高度な分析や解析を行い、結果を視覚的に表示させるシステムです。米国、カナダでスタートした GIS 技術は、1980 年代以降、衛星による位置情報システム (GPS) やリモートセンシング (RS)、各種シミュレーションやデータベース、インターネットなど、さまざまな先進技術と連携することで、応用分野は非常に広範囲となり、またその利用は急速に拡大しました。

農業農村分野においては、これまでに土地利用情報、農業水利施設情報、ため池情報、農道・流通拠点施設情報など、さまざまな情報について GIS のデータ基盤整備が進められ、平成 18 年度

からは水土里情報利活用促進事業が導入され、更なる利用普及を推進しているところです。実用面で、GIS は農地や用水の利用調整や営農管理のほか、農業水利施設の維持管理、ハザードマップの作成、防災情報の伝達、環境配慮対策への支援など、多方面への利活用が期待されています。また、より良い利活用のためには、農林水産省、都道府県、市町村、農協、農業委員会、土地改良区など、各種の農業関係機関や教育研究機関の間で情報の共有化をはかることが最大の課題となっています。

そこで今回の小特集では、農業農村分野における GIS の利活用をテーマとして、これにかかる最新の研究事例、先進的な利活用事例、開発されたシステム、情報共有化の取組みなどについての報告を公募いたします。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ (1,800 字程度)**で、写真を 1~2 枚程度入れてください。

私の勤める本は、原稿の長さ：1,200 字 (写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知(農業土木学会誌)」平成20年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1~12月号)のうち、特に春季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観とけいむすることで、その美しさに磨きがかかっていくようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

みなさんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣

間見える造形美」を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成19年6月30日(春季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしないことが採用の条件となります。

平成19年度 資源循環研究部会研究発表会の発表申込みのご案内

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



資源循環研究部会では、農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流を目的として、研究発表会を開催します。

つきましては、資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。

なお、発表会の聴講申込みにつきましては、詳細が明らかになり次第お知らせします。

1. **開催日** 平成19年10月24日(水)~26日(金)のうち1日 10:00~16:00(予定)
2. **会場** 東京ビッグサイト
3. **内容** 農村における水やバイオマス等有機資源の利活用及び循環に係る調査・研究の最新成果

4. 発表要領

(1) 発表者の資格

農業土木学会資源循環研究部会員とします。(申込みと併せての入会も可能です)

(2) 発表の内容

農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る調査・研究の成果(農業集落排水技術全般、バイオ

マス利活用、水資源再利用、汚泥再資源化技術等)

(3) 発表方法

個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。発表を補助する映像機器として、パソコン画像を投影できるプロジェクターを用意します。

(4) 発表時間

20分程度/人(発表17分、質疑応答3分程度)の予定です。

(5) 論文集

聴講者に発表内容を十分理解していただくため論文集を作成し配布します。

(6) その他

優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰することを予定しております。

5. 申込み方法

(1) 発表申込み

申込み用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込用紙は研究部会HPよりダウンロードしてください。

申込みは、原則として電子メールにて受け付けます。受

理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

申込み締切りは平成19年4月27日(金)とします。

なるべく多くの方に発表してもらおうと考えておりますが、応募総数、内容によってお断りする場合があります。応募者へは5月末に通知する予定です。

(2) 投稿

発表が決定した応募者には、論文の作成をお願いいたします。論文作成要領は研究部会HPに掲載しております。

投稿締切りは平成19年7月31日(火)とします。

論文は、査読委員会にて査読を行い、場合によっては加

筆修正をお願いする場合があります。

(3) 申込み・問合せ先

農業土木学会 資源循環研究部会

事務局：社団法人地域資源循環技術センター企画情報室
企画情報班(担当：関島)

〒105 0012 東京都港区芝大門一丁目1番3号 日本赤十字社ビル

☎03 3432 6282, FAX 03 3432 0743,

E-mail: sigen@jarus.or.jp

研究部会HP: <http://www.jarus.or.jp>

農地保全研究部会第28回研究集会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



今年度の農地保全研究部会の研究集会を北海道上川地方で開催します。

なお、プログラムをはじめ詳細については、次号にてお知らせします。

テーマ：「農村景観形成における農地保全の役割」

開催日：研究集会 平成19年9月20日(木)

：現地見学会 平成19年9月21日(金)

場 所：研究集会 美瑛町(美瑛町町民センター)

：現地見学会 美瑛町および近郊丘陵地帯の農業農村整備事業地区など

第51回粘土科学討論会

主 催：日本粘土学会

共 催：農業土木学会他17学協会

会 期：2007年9月12日(水)～14日(金)

会 場：北海道大学学術交流会館
〒060 0808 札幌市北区北8条西5丁目、
☎011 706 2141(会館事務室)

日 程：

9月12日(水) 口頭発表/特別講演/シンポジウム/懇親会

9月13日(木) 口頭発表/ポスター展示/ポスター討論/口頭発表

9月14日(金) 見学会

講 演：

A. 一般講演(口頭発表, ポスター発表)

B. 特別講演 渡辺義公氏(北大院・工, 北大21世紀COEプログラム拠点リーダー)(予定)

C. シンポジウム

一般講演の申込方法：

日本粘土学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/cssj2/index.html>)からお申込みください。講演ごとに1通の参加申し込みフォームをお送りください。講演概要はプログラム編成に使用いたしますが、合わせて日本粘土学会ホームページに討論会プログラムとともに公表しますこと、ご了承ください。なお、

発表者の内1名は本学会会員であることが必要です。Webページが使えない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

申込開始：2007年5月22日(火)12:00～

申込締切：2007年6月19日(火)必着です。Webページからの申込の場合は確認のための返信をいたしますので、返信がない場合は再度ご連絡をお願いいたします。

参加登録料：会員(共催学会員を含む)3,000円, 学生会員1,000円, 非会員5,000円

講演要旨集代：3,000円

講演要旨締切：2007年7月20日(金)必着

懇親会：9月12日(水)18:30～ 札幌アспенホテル(札幌市北区北8条西4丁目5番地)

会 費：一般6,000円, 学生3,000円

「粘土科学 第46巻第2号」に添付する参加申し込みフォーム, または官製はがきに参加者氏名・所属を記入して, 下記申込先にお送り下さい。

見学会：9月14日(金) 目的地：豊羽鉱山および洞爺湖周辺(予定) 会費：未定

「粘土科学 第46巻第2号」に添付する参加申し込みフォーム, または官製はがきに参加者氏名・所属を記入して, 下記申込先にお送り下さい。

問い合わせ、講演・懇親会申込先、講演要旨送付先：

〒060 8628 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
北海道大学大学院工学研究科環境循環システム専攻地圏循環工
学講座内

第 51 回粘土科学討論会実行委員会 米田哲朗
TEL&FAX : 011 706 6305
電子メールアドレス : ami@eng.hokudai.ac.jp

**日本農業工学会平成 19 年度（第 23 回）シンポジウムの開催
テーマ 『農山村再生における“景観”』**

農業農村の多面的機能については、農村地域に居住する住民のみならず、多くの市民を含めた関心事となっております。近年では、農村独自の自然および生産環境の保全、歴史文化や景観並びに生態系にも配慮した取組みが求められております。

一方、農業農村をめぐる情勢は厳しさを増し、とくに農村、山村において高齢化・過疎化が加速度的に進んでおります。そこで、農山村再生と景観を軸としたシンポジウムを企画しました。今回のシンポジウムは、農業土木学会と農村計画学会が担当し、地域資源である水と土、農村地域および景観から、農山村の再生を探り、今後のあり方への提案となることを期待しております。多数のご参集をお願い致します。

主 催 日本農業工学会

共 催 日本学術会議

日 時 平成 19 年 5 月 11 日（金）13 : 00 ~ 17 : 00

場 所 農業土木会館 6 階大会議室

参加費 1000 円（資料代を含む）

会長挨拶：真木太一 日本農業工学会会長，九州大学大学院農学
研究院教授

開会の辞・趣旨説明：駒村正治 日本農業工学会副会長，東京農
業大学教授

講演 1

「景観から地域コミュニティを読む 近江八幡・バリ島」

大橋 力 文明科学研究所所長

講演 2

「意味ある景観を読むー<庭>と<島>の農業空間」

小野芳朗 岡山大学大学院環境学研究科教授

講演 3

「土地・水利用が織る田園景観 形成と維持」

千賀裕太郎 東京農工大学大学院教授

講演 4

「現代社会における「農」の風景の意義」

進士五十八 東京農業大学教授・前学長

総合討論

「農山村再生における“景観”の意味」

コーディネータ 駒村正治

パネリスト 大橋 力，小野芳朗，千賀裕太郎，進士五十八

閉会挨拶：副会長

問合わせ先：東京都港区新橋 5 - 34 - 4

日本農業工学会事務局

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494